



松子さんと松太郎さんの『ユニット暮らし』

第六話 『東町1丁目ユニット』暮らしは続くよ どこまでも の巻

こんにちは。S 荘『東町1丁目8番地と9番地』在住の高萩松太郎と松子です。

私たち夫婦のブログ「松子さんと松太郎さんの『ユニット暮らし』」もいよいよ最終話を迎えました。

この1年半の東町1丁目での暮らしは、私達夫婦にとって終の棲家と思える住まいになりました。この巻では、なぜそう思えるのかということも含めて『ユニット暮らし』についてお話します。

第一話でもお伝えしたとおり、特別養護老人ホームの入居者は要介護3～5の中・重度の方が対象です。ですから職員さん達もさまざまな課題解決のため、研修会や委員会・諸会議・ミーティングを開催されています。私の知っている限りでも、下記のものがあります。



ユニット会議



ユニットリーダー会議



管理職会議



施設内研修会

さて、私達の年代になりますと、『何処でどのように最期を迎えたいか?』というテーマは切実な問題です。殊に私の子供は娘一人だけなので、出来るだけ負担をかけないようにしたいと考えていますが、現実はなかなか難しいですね。

ただ、ここでは『看取りケア』をされていて、終末までケアを受けながら暮らすことが可能です。つい先だっても、東町1丁目ユニット7番地の道子さんが永眠されました。道子さんは、

癌を患っておられたのですが、「ここで最期を迎えたい。」というご本人の強い意志により、ご家族も看取りケアを選択されました。

私たちは、東町1丁目という同じ屋根の下で暮らす仲間として見守りながら最期の瞬間まで寄り添いました。子どもさん達やお孫さん達も連日面会にお見えになられました。



看護ケア



配置医師による診察



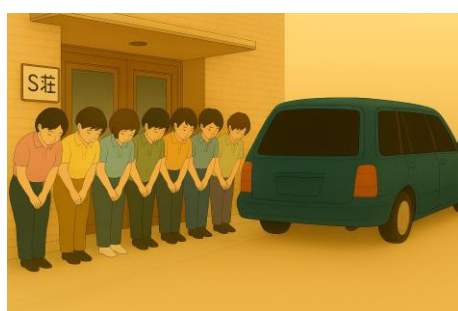
看取りのカンファレンス



家族や暮らしの仲間と



医師の診断



表玄関からお見送り



お参り



そして、道子さんは葬儀者の車でご自宅にお帰りになられました。松籟荘は表玄関でお見送ります。「何故、表玄関からなのですか？」とS施設長に伺ったところ、「入居された時は表玄関からお入りになりますよね。ご退居の際も表玄関から退荘されるのが自然ではないでしょうか。それと、一般的に家でもそうではないでしょうか。」との回答でした。

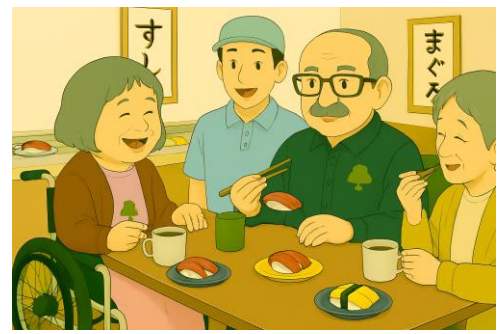
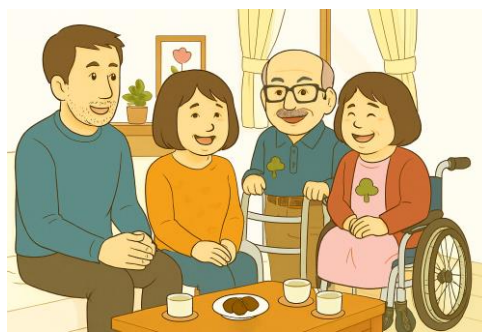
道子さんが、「ここで最期を迎えたい。」とおっしゃっていたことが分かったような気がしました。

最後に家族との関係についてですが、ここでは、「面会」「外出」「外泊」については、ホームページに掲載されるので、私達も家族も確認することができます。「コロナが猛威を振るっていた時はかなわなかったのですが、現在は、他の感染症の情報もタイムリーにキャッチしながら、できる限り安全にご家族さんとの交流ができるようにその都度方法を変えています。」とのことでした。ですから感染症が流行していない時期には、娘たちや孫たちと連絡を取り合い一緒に過ごす時間を設けています。この適度な距離感が自然な心地よさなのです。

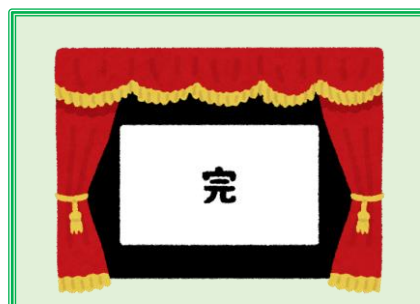
【普段の過ごし方】



【感染症の心配がない時期の家族との過ごし方】



私たち夫婦も、道子さんのように、周囲の方たちとの良好な関係性を保ちながら、住み慣れたユニットで、人生の最後のページを迎えるまで暮らし続けられたら、悔いのない人生だったと思えるのではないかと考えています。



 イラスト画像はAI（Copilot）作です